

# 平成 28 年度 豊かな人間関係づくり支援事業 要項

射水市教育委員会

## 1 趣旨

近年、いじめ認知件数、不登校児童生徒が増加傾向にある。また、教員の大量退職に伴い 29 歳以下の若手教員への指導技術の継承が課題となっている。このような現状を踏まえ、教職員への研修の機会の充実を図りながら教育現場における児童生徒の豊かな人間関係づくりを支援する取組を推進する。

## 2 事業の内容

本事業は、モデル校において次の 2 点についての実践研究を行い、その取組に対して支援し、成果を評価するものである。

- 1 児童生徒のコミュニケーション能力の育成
- 2 自尊感情を高めることができる学級集団づくり

## 3 事業の実施方法

2 中学校区の小中学校をモデル校に指定し、Q-U 調査（学級診断調査）による学級集団の傾向分析を基に児童生徒や教職員に適切な支援を実施する。事業の評価は、2 回の Q-U 調査による客観的評価及び、児童生徒、保護者、教職員等へのアンケート調査による主観的評価によって行う。

### (1) 市教育委員会（教育センター）の取組

#### ① モデル校の指定

	1 年目 (H28)	2 年目 (H29)	3 年目 (H30)
中学校	新湊南部中	射北中	新湊中
小学校	作道小、 塚原小	片口小、 堀岡小 東明小	放生津小、 新湊小
中学校	小杉南中	小杉中	大門中
小学校	中太閤山小、 歌の森小 金山小	小杉小、 太閤山小 下村小	大門小、 大島小

#### ② 教育アドバイザー指導・支援体制の構築

- ・ Q-U 調査の基礎を学び学級経営に生かす研修会（新採教員研修 5/10）
- ・ Q-U 調査活用による学級集団づくり研修会（小中学校 7/26、7/29）
- ・ 教育アドバイザーによる学校支援（1 校あたり最高 6 回の派遣が可能）

#### ③ モデル校連絡会議の開催

### (2) モデル校の取組

- ① Q-U 調査を活用した学級集団の傾向分析
- ② 孤立傾向児童生徒の把握による面談実施
- ③ 不満足侵害行動型の児童生徒の把握と指導
- ④ 学級集団づくりに関する校内研修
- ⑤ 特別支援教育の視点を取り入れた授業改善
- ⑥ 自己肯定感の高まりにつながる学力向上の取組
- ⑦ 安心して学習できる学級環境づくり

## モデル校における研究活動のイメージ

5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月
◇モデル校連絡会議 ◎Q-U調査 1	・校内互見授業・協議 ・学級集団の傾向分析 1	・Q-U調査結果分析 1 ・気になる児童生徒の面談	◇モデル校連絡会議 ・教育アドバイザーによる校内研修 1・2	・校内互見授業・協議	◎Q-U調査 2	・学級集団の傾向分析 2	・Q-U調査結果分析 2 ・気になる児童生徒の面談	◇モデル校連絡会議 ・教育アドバイザーによる校内研修 3	・アンケート調査 ・研究成果のまとめ

## 4 取組の評価

- (1) Q-U調査の分析から  
2回のQ-U調査から学級集団の変化を分析し、取組を評価する。
- (2) アンケート調査から  
児童生徒、保護者、教職員等へのアンケート調査により、取組を評価する。
- (3) その他  
不登校児童生徒の出現率や児童生徒の年間を通した出席率、いじめの認知件数等の変化から取組を評価するなど、取組が豊かな人間関係づくりに効果を及ぼした例があれば記す。

## 5 その他

- (1) 教育アドバイザーの支援例

支援例A

5限	6限	放課後
○年○組 アドバイザーによる参観	○年○組 アドバイザーによる参観	校内研修 (授業参観をもとに教育アドバイザーより助言を受ける。)

支援例B

放課後	
講義 (Q-Uの結果の生かし方)	実習 (自級のQ-Uの結果から考察する。)

支援例C

5限	放課後
講演 (音楽と人、そして心) 対象：児童生徒又は教職員	校内研修 協議会 (音楽を通して人の関係を近づける)

- (2) 教育アドバイザーによる支援については、日程を市内の他の小中学校にも知らせる。  
(他校の参観希望があれば、なるべく受け入れる。)